



インドネシア人実習生のペンケース。来日前から使っているそうです。

あじけん通信

2019 OCTOBER
VOL.142

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

10月に入り、朝夕の冷たい空気から秋の訪れが感じられるようになって来ました。それでも今年が残暑が長引き日中はエアコンが必要な状態が続いています。1日の温度差は朝夕と日中では10℃を超える日も多く、今年はこの気温の差で、体調を崩す実習生が目立っています。特に1年を通して高温の東南アジアからの実習生の皆さんは、日本のこの時期の気候に慣れるのに時間が掛かるようです。毎度毎度になりますが、日本語学習・技能実習も体が資本。実習生の皆さんには、この季節の変わり目に際し、規則正しい生活と十分な睡眠・栄養を取ることを呼びかけているところです。

あじけんスコープ VOL.79 ～アジ研「ふるさと宅急便」～



アジ研 2階ロビーで荷物の発送に取り組む実習生の皆さん



テープでコンパクトに圧縮された衣料品



食料品と薬は小包の定番アイテム

今月のあじけんスコープは、研修センターで、毎週火曜日と木曜日の週2回、放課後（17:30～18:30）に行なわれている荷物の郵送受付の様子をレポートします。

郵送受付の主な対象は、ベトナムからの実習生（利用者の90%以上）、送る相手は、日本国内に在住の友人が殆どです。荷物の中身は故郷からの食料品と薬が圧倒的に多く、次いで衣料品。送り状の宛名と住所は、全て自分で書くのが原則。来日したばかりの実習生の皆さんには少しハードルが高いのですが、地域内のコンビニ等からの郵送に比べれば、荷物が送り易いと実習生の皆さんに好評で、毎週火曜日・木曜日の受付は大盛況となっています。

今月の実習生



畢語玲（ヒツ ゴレイ）さん

今月は、当校で会話テストが導入されてから2人目！修了会話テストでAレベル評価を受けた中国人実習生、畢語玲（ヒツ・ゴレイ）さんです。前回A判定が出たのは2009年だったので、畢さんは正に10年に一度の逸材！

因みにAレベルの評価基準は、「語彙数・表現力ともに豊富で、自然な日本語での日常会話をほぼ完璧に理解し、応答も適切且つ非常に流暢」とされています。紙面では彼女の会話力を伝えられないのが残念で仕方ありません。しかし、彼女と日本語との関わり、また会話の練習方法がとてもユニークなので、是非、皆さんにご紹介させていただきたいと思います。

彼女と日本語との関わり、また会話の練習方法がとてもユニークなので、是非、皆さんにご紹介させていただきたいと思います。

こんにちは、私は畢語玲です(ひつ・ごれい)
 周りの学生や先生たちは、いつも私の日本語を褒めてくれます。実際は私は日本語の会話はとてつとしいですが、字をかくのはにがてです。友せ友ら私はアニメをとおして日本語の会話を学びました。
 初めてアニメをみたのは、小学三年生のころで、そして6年生になるという間に日本語が話せるようになりました。初めてアニメをみたときから自分の頭の中で世界を創造し、今日はアニメをみたら日本の世界を創造して、みんな日本語を学びます。その世界の人と会話することで私の会話はますます良くなりました。その世界の人と会話するときには私が言いたいけどどうしてもし出せぬ単語や文があれは、そこをパスして会話をつなげます。そうすることで会話を楽しく始めますし、会話をスムーズにします。
 これが私の日本語会話の勉強法です。もしよかたら皆のためにみてくださーい。

あじけん流日本語授業

～日本語会話掛かり稽古～



稽古の前に「お互いに礼！」

今月のあじけん流日本語授業は、当校で「会話掛かり稽古」と呼ばれている会話練習の実践例を紹介します。この練習方法は、大人数のクラスでも、効率よく、効果的に個別会話練習が出来るので、お薦めの活動です。講師が師範役・実習生が師弟役となり、剣道の掛かり稽古のように、講師が実習生に胸を貸して稽古を付けるイメージで会話練習が行なわれるので「会話掛かり稽古」と呼ばれています。お昼ごはんを食べて、少し眠くなってくる午後の5時間目（午後の1時間目）に行なうと、学習者の眠気も覚めて、より効果的です。

まずは、ウォーミングアップとして、少しテンポが速目の歌を歌います（写真1）。早口詞で代用することもあります。次に講師の先生に指名された実習生が前に出て、1対1で会話します。会話は、実習生が準備した質問から始まり、次第に話題を発展させていきます（写真2）。制限時間は5分間。多くのクラスメイトに見られていることでプレッシャーを感じますが、それが良い意味での緊張感をもたらし、会話へのモチベーションを高める効果があります。また、会話を見ている側の学習者も、自分よりも上級者の会話から便利な表現や会話の運び方を学ぶことが出来たり、「自分も負けずに頑張ろう！」と日本語学習への更なる動機付けになる利点もあります（写真3）。会話の最後には、クラスメイトからの質疑の時間がありますが（写真4）、この時間を入れても1人約10分で稽古が終わるので、1時間の授業（50分間）で4人～5人の実習生に稽古が付けられます。これを毎日繰り返すと、30名のクラスでも、約1週間でクラス全員と個別会話練習が出来るので、内容の濃い会話練習を、効率的に行なうことが出来ると、講師の先生方にも、実習生の皆さんにも好評の会話練習となっています。



写真1：ウォーミングアップに歌を歌う実習生達



写真2：緊張しながらも講師に質問を投げかける実習生



写真3：真剣な眼差しでクラスメイトの会話を見つめる実習生の皆さん



写真4：会話内容について質問する実習生

※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます